

響き合えた音楽会! 2学期の大きな行事「校内音楽会」が10月29日に行われました。手前みそでもうしわけないのですが、過去3年間音楽会の子どもたちの歌声を聞いてきましたが、本校の子どもたちの歌声はとても自然な発声でいいなと思っています。いかがだったでしょうか。どのクラスも美しい歌声・すばらしい演奏ができたと思います。



6年生の合唱



6年生の合奏



全校での発表

協力し合った全校飯盒炊さん、美味しいカレーができました!



10日(月)、前日の雨で実施が心配された全校飯盒炊さんですが、全校で砦山に登り、飯盒炊さんを行いました。今年は、全グループカレーを主に献立を考えてつくりましたが、手際よくできるグループ、先生に火

のおこし方を手伝ってもらったりして、ゆっくりになってしまっているグループなどいろいろなグループがありました。約1時間半ぐらいで全グループが食べ始めることができました。伝統ある大事な行事で、過日の学校評価アンケートにも是非今後も続けてほしいというご意見をいただきました。砦山においては平成の始めから20年を経過し、続けてきている本校の特色の一つの行事ですが、教育課程の中身が増えていること(教えることの中身が多くなっている)等、高学年が余裕をもってこの行事が行えない状態です。学校では、縦割りで行うこの行事のよさをもう一度考えて、今後のあり方について検討していきたいと思っています。

りんご畑の坂も何のその、マラソン記録会!



マラソン旬間として取り組んできた最終日19日、冷え込んだ朝でしたが、お天気に恵まれ、高学年が走る頃には、日差しがとても温かくなり、各学年の子どもたちは、一生懸命走りました。今年のはじめての1年生もりんご畑の坂を元気に走りぬけていきました。頼もしい走りがいっぱい見られました。

1 1 月校長講話より

1 1 月 2 0 日

このところ朝が寒くなりました。風邪をひいていませんか。いつものように気持ちを落ちつける時間をとります。(深呼吸をしてゆっくり息をはいてください。今日までのことで「ありがとう」ということがたくさんあったのではないのでしょうか。思い出してみましょう。)

今月は全校飯盒炊さんがありました。班長さんを中心に飯盒炊さんができましたね。みんながなかよく食べられるようにするのに、班長さんは大変だったと思います。5・6年生は、他の人がなかよくできるように気がついたのではないのでしょうか。大事な勉強をしてくれました。

今日は、どうしたらみんながなかよく暮らせるか考えてみたいと思います。昔から「いじめ」「差別」などがあり、仲よしだと思っていたお友だちが、他の子と仲良くして一緒に遊べない、そのことが気に入らないといって悪口をいったり仲間外れがあったり、「いやだよ」と言わないから、プロレスわざをかけてしまったりといった「いじめ」のニュースがよく聞かれます。みなさんはどうですか。豊野西小学校の子どもたちはそのようなことはないと思います。

「いじめ」「差別」はいけないことだとわかっているのににどうしておこるのかな。ここにいる人は、同じ人はいません。一人一人みんなちがいます。背が高い人がいれば背が低い人がいる。力が強い人がいれば力が弱い人がいる。テストをすれば100点をとる人がいれば50点をとる人がいる。自分の持っているものを分けてあげられるといいなと思います。そうじゃなくて、自分の方が上で、ほかの人が下だと思ってしまう。自分の方がえらい人で、他の人がえらい人だと思ってしまう。そうすると自分の思い通りにしたくて、自分のことしか考えない、他の人がどんなことを考えているか考えられなくなってしまいます。

自分のことしか考えられない人は、他の人が悲しい思いをしていることわからなくなってしまいます。漢字で書くと「忘」です。わすれるという漢字は心がなくなっていってしまうという意味です。人を大事にする気持ちを忘れちゃう。自分のことしか考えられない。だから「いじめ」とか「差別」とかなくなるのかな。「忘れないようにする」にはどうしたらよいか。

昔の人は、子どもたちにわかるように昔話をしているいろいろ教えてくれました。

その一つ「花さかじいさん」の話をします。

むかし、正直者のおじいさんとおばあさんがいました。ある日、隣の欲張りじいさんにいじめられた犬が逃げ込んできました。しろと名付けてかわいがりました。ある日、しろが裏山で「ここほれワンワン」とほえました。おじいさんがそこを掘ると、小判がざくざく出てきました。

この話を聞いた欲張りじいさんとおばあさんは、しろを連れ出し「宝物はどこじゃ。」とむりやりに鳴かせましたが、そこから出てきたのはがらくたばかりでした。

怒ったじいさんとおばあさんは、白を殺してしまいました。

優しいおじいさんとおばあさんは、しろの墓を建て苗木を植えました。苗木はどんどん伸びて大きな木になりました。おじいさんとおばあさんはこの木で臼をつくって、しろにお供えする餅をつきました。すると、臼の中の餅が光だし丸めると小判になりました。欲張りじいさんとおばあさんは、臼を借り餅をつきましたが、餅は泥になってしまいました。怒ったじいさんとおばあさんは、臼を壊して燃やしてしまいました。

優しいおじいさんは、残った灰を集めて持ち帰り畑にまきました。その時風に飛ばされた灰が枯れ木にかかり、きれいな桜の花が咲きました。これを見たお殿様が、これは見事じゃとほうびをとらせました。それを見ていた欲張りじいさんも灰をまきましたが、花が咲くどころか殿様の目に入ってしまい、牢屋に入れられてしまいました。



「因果応報」という言葉があります。よいことをするとよい結果になる、悪いことをすると悪い結果になるという意味です。「いじめ」は悪いとわかっている、だれでもいつもやさしくできる人には絶対いいことがあるよ。いいことをすればいいことがある、悪いことをすれば悪いことがおこると昔から「花さかじいさん」のように子どもたちにわかりやすく話をしてくれています。皆さんどっちがいいかな。だれでもやさしくできる人、絶対いいことがあります。これからも友達を大事にやさしくしてください。正直じいさんになってほしいです。

